

市民アンケート速報
～1～
4月30日 401通



「(新市庁舎建設よりも)もっと他に市民のためになることに資金を活用して」
(鶴見区、60歳代男性、自営業)

「(新しく港・道路をつくるよりは)もっと税金の使い方を考えてほしい」(西区、73歳男性、無職)

「これからの子どもたちに貴重な税金は使っていただきたいです」(泉区、50歳代女性、パート)

「何よりも市民の方々が望んでいることにもっともっと耳を傾け、合意のもとで財源を使ってほしい!!」(保土ヶ谷区、40歳代主婦、主婦)

「あまり意味のないお金を使っています。市民のための市民優先の金を使ってほしい」(港北区、60歳代男性、会社員)

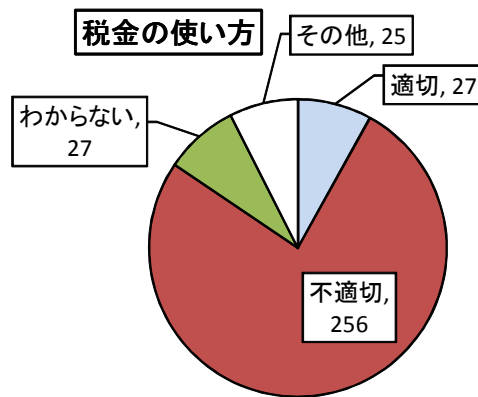
自由意見欄には、ハコモノや道路・港湾施設よりも、子ども、福祉、身近な道路整備など市民生活に密着した予算の使い方をしてほしいという意見が、性別・年齢問わず多くみられました。一方、市内経済にお金が回り景気が良くなるのであれば、公共事業も必要だという意見も少数ながらありました。

地域のお困り事や自由意見欄にはほとんどの方が記入しており、狭い歩道の整備、電線の地中化などの地域の要求のほか、多くの方が中学校給食、小6までの医療費無料化、高齢者施策の充実を望んでいます。

日本共産党横浜市議団は、アンケート付きの横浜市政新聞2013年春季号を3月に発行し、市内の党・党後援会のみなさん方のご協力を得て、配布していただいております。

アンケートの回答は主に郵送で3月から届き始め、4月末現在で401通が届いています。

市議団では現在、アンケートの集計・分析を行っておりますが、その結果報告を随時行っていきます。なお、内容の一部が週刊ニュース「こんにちは」と重複することがあることをご了承ください。



行政区	件数
鶴見	35
神奈川	21
西	22
中	10
南	12
港南	30
保土ヶ谷	25
旭	34
磯子	15
金沢	23
港北	26
緑	26
青葉	28
都筑	7
戸塚	26
栄	16
泉	13
瀬谷	14
無記入	18
合計	401

性別	件数	割合
男	201	50.1%
女	178	44.4%
無記入等	22	5.5%
合計	401	100.0%

年齢	件数	割合
10・20歳代	12	3.0%
30歳代	43	10.7%
40歳代	38	9.5%
50歳代	37	9.2%
60歳代	95	23.7%
70歳代	90	22.4%
80歳代	54	13.5%
無記入	32	8.0%
合計	401	100.0%